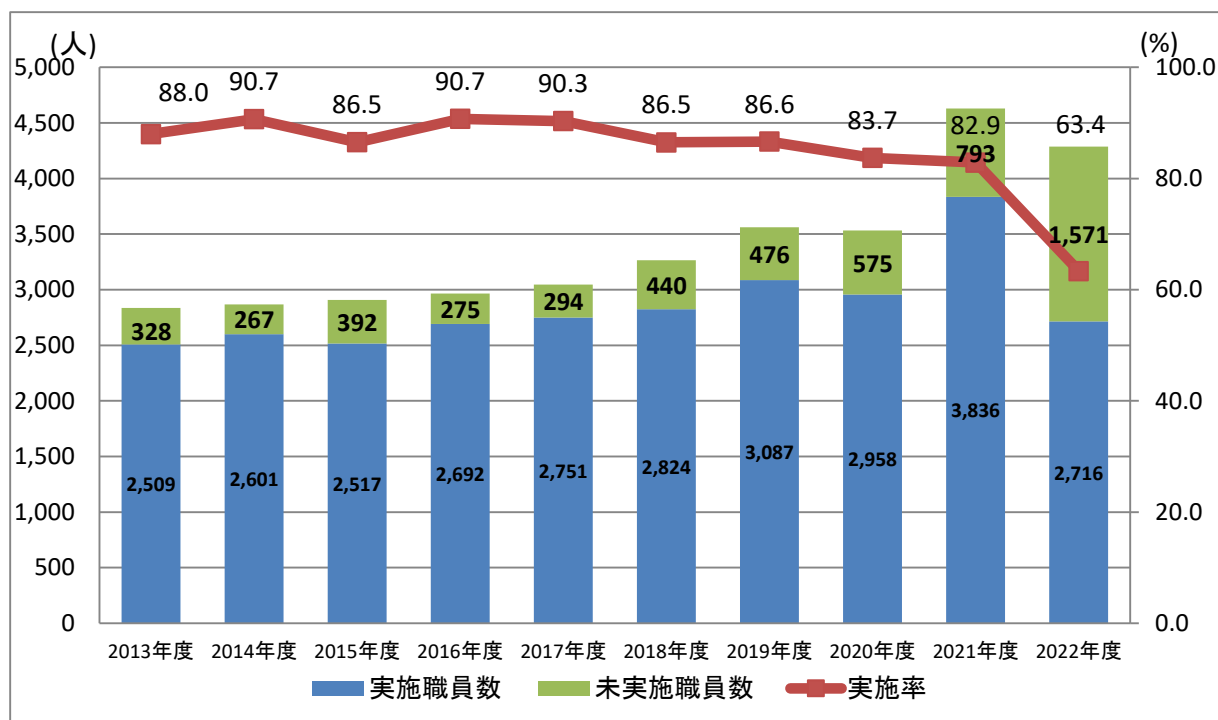


職員のインフルエンザワクチン予防接種率



病院職員のインフルエンザワクチン接種率は、患者の安全にかかわる問題であり、病院職員の罹患は、病院を受診する患者への感染機会を増やすこととなるため、注意を払わなければならない。また、罹患した場合、職員の業務が制限され、その結果職場の人員不足を招くこともある。予防接種率を上げることは、罹患の可能性が減少し、重症化も抑制されることが考えられる。

2022年度の予防接種率は低くなっている。これは、新型コロナウイルス感染症の流行によって、マスクの着用など感染予防対策を行うことが定着したことで、インフルエンザの流行がなく、インフルエンザワクチンの予防接種の必要性が低下したことが要因の一つと考えられる。

データ提供 法人本部健康管理部